

音のない世界を知って 誰もが暮らしやすいまちに

聴覚障害は外見からは分かりにくいので、周囲に気付かれないまま困難を感じることもあります。でも、ちょっとした気付きや行動が、うれしい助けになることも。手話言語通訳者の方と聴覚障害のある方に話を聞きました。

「聞こえない」
は
さまざま

●ろう者

主に幼少期から聞こえず、手話を使う方

●難聴者

音が聞こえにくい方。軽度から重度まで程度はさまざま

●中途失聴者

音声言語を獲得した後に聞こえなくなった方

●加齢性難聴者

年を重ねて難聴になった方

きっかけは、少しの興味から

障害のある方の社会参加と平等を世界に呼び掛けた国際障害者年(1981年)に放送されていた聴覚障害者をテーマにしたドラマを見て手話に興味を持ち始めました。

大学入学後は、地域の手話サークルで活動をするように。聞こえない方と関わる機会が自然と増える中で、今の手話通訳者の道に進んでいきました。

会話の主役は、聞こえない方

手話通訳の現場では、聞こえる方がつい通訳者の方に話しかけたり「本人に伝えておいてください」と通訳者に伝言を頼んだりしてしまうことがあります。

でも、会話の主役はあくまでも聞こえない方。私たち通訳者は、その方の“耳”と“口”の代わりになる黒子のような存在で、聞こえない方が自分の力を発揮できるよう支えています。だから、話す時は聞こえない方本人に向かって伝えてほしいと思います。

コミュニケーションを諦めないで

手話ができなくても、コミュニケーションをためらう必要はありません。顔を見て目を合わせた上で、ジェスチャーや身振り手振り、口元を見えるようにするなど、ちょっとした工夫で伝わりやすくなります。他にも、筆談や図を示して伝える方法も。その際は、難しい言い回しをせずに簡潔に書くことがポイントです。

また、聞こえない方に話しかけても気付かないときは、軽く肩を叩いたり、手を振って合図をしったりして、会話を始めてほしいと思います。

手話が自然に使われる社会に

手話は特別なものではなく、日本語などの音声言語と同じ言語です。中野区でも「中野区手話言語条例」が施行されていますが、手話に触れる機会がもっと増えて、自然に使われるようになったらいいですね。

手話通訳者の方の声
お互いを理解し
伝え合えるように

ろう者の方の声
手話は言語
共に歩む社会へ



野本美香さん

中野区登録手話通訳者。高校2年生のころに手話に興味を持つ

板橋弥央さん

中野区聴覚障害者福祉協会理事。中野区手話講習会の講師としても活躍

聞こえづらさを感じている方へ

補聴器購入費用の一部助成を受けられます

次の対象の方は、購入費用の一部助成を受けられます。購入前に申請が必要です。申請要件や助成額などについて詳しくは、区HPをご覧ください。各係へ問い合わせを。

対象・問合先

18歳未満で身体障害者手帳の交付対象とならないお子さん

=子ども医療助成係／3階

☎(3228)5623 FAX(3228)5679

65歳以上で加齢により聞こえづらさを感じている方

=在宅サービス係／3階

☎(3228)5632 FAX(3228)5620



▲区HP



▲区HP

ヘルプマークを配布しています

障害者施策推進係／3階

☎(3228)8832 FAX(3228)5662

配慮や支援が必要であることを周囲に伝える方法です。

配布場所 地域事務所、すこやか福祉センター、区民活動センター、区役所3階障害福祉相談窓口など

他にもさまざまな支援・サービスがあります

「障害福祉のしおり」に詳しく掲載しています。区HP、地域事務所、すこやか福祉センター、区民活動センター、区役所3階障害福祉相談窓口で配布中。



▲区HP

アスリートに「目で見える応援」を

新しい応援のかたち
サインエールで
デフリンピックを応援しよう!

サインエールは、「きこえる・きこえない」に関わらず、全ての人がアスリートに思いを届ける応援スタイルです。日本の手話言語等をベースにつくられています。詳しくは、都HPをご覧ください。



▲都HP

①行け!



両手を顔の横でひらひらさせ、勢いよく前に突き出す

②大丈夫、勝つ!



右手を開いた状態で胸にあてる。横にスライドさせた後、拳を握る。左手も同様に繰り返した後、ガッツポーズをするように両拳を前に強く出す

③日本 メダルを掴み取れ!



両手でひし形を作る。左手は地面と水平にし、右手は親指と人差し指で丸を作る。そのまま右手を左手の下にくぐらせ、上にあげた位置で掴み取るような動作をする